

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

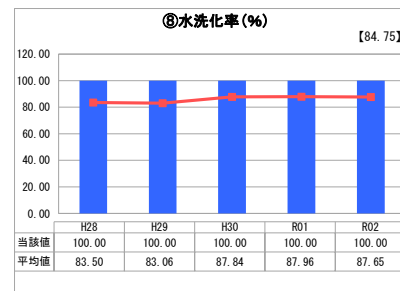
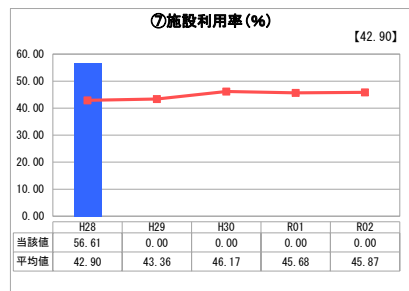
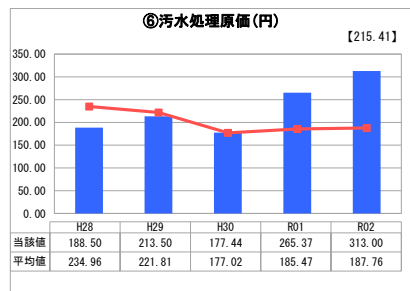
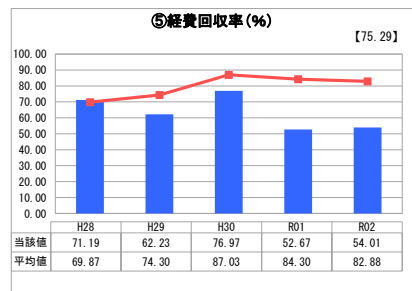
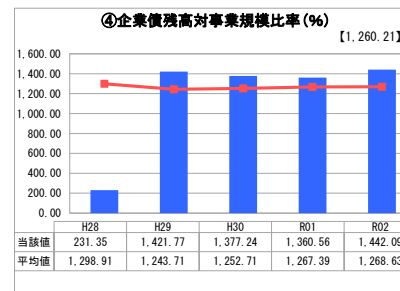
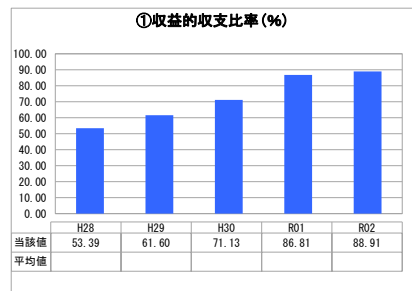
北海道 上川町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	5.17	37.11	2,604

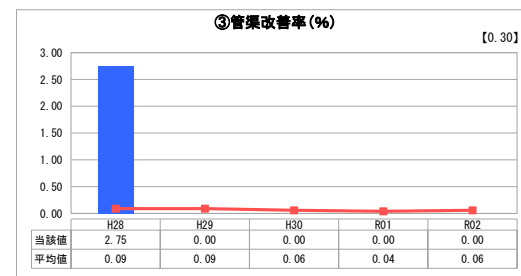
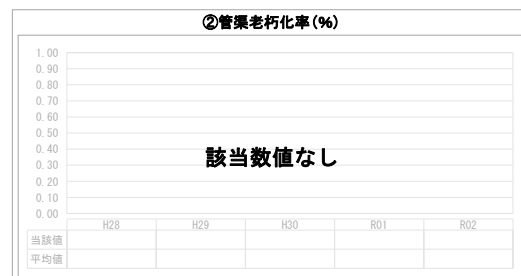
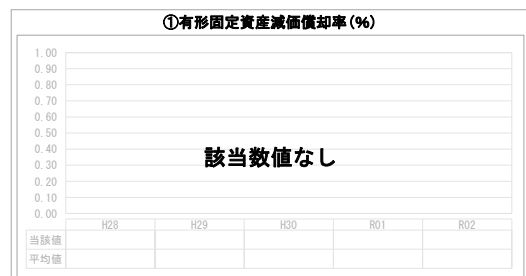
人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
3,398	1,049.47	3.24
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
174	0.17	1,023.53

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

特定環境保全公共下水道については、大規模な温泉施設を抱えている。施設利用率の上昇により収益的収支比率が回復に向かってきており、汚水処理原価が上昇していることから、コストダウンにより経費回収率も上昇すると分析する。

処理場は運用開始後30年以上経過しており、現在計画を策定してきているところである。今後は大規模な改修工事等を段階的に施工していかなければならない。

管渠についても老朽化が進み定期的な修繕を行ってきているが、事故等を未然に防ぐために計画的な補修整備が必要とされる。

各施設の長寿命化工事を見据えた投資の効率化や維持管理経費の削減策を検討し、経営の健全化を図らなければならない。

⑦施設利用率  
 H29 0→46.27  
 H30 0→39.94  
 R01 0→36.67  
 R02 0→44.96

### 2. 老朽化の状況について

処理場については長寿命化工事を終えてきているが、突発的な故障を未然に防ぐために、現在策定中の計画を基に整備を推進し、また処理場の構築物の更新も含めて計画的な整備を図らなければならない。

管渠についても、老朽化が進んでいるため計画的な整備を図らなければならない。

### 全体総括

特定環境保全公共下水道事業の使用料収入は、大手ホテルが大半を占めており観光客の入込に大きく左右されるため、安定的な財源の確保が求められる。管渠についても、突発的な事故を未然に防ぐための更新設備が今後必要と思われるため、経営の健全化を重視しながら全体計画を検討していきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。